

会頭に執任後、勧められるままに会頭コメントを書き続けてまいりました。

このコメントは日頃私が思っている事、あるいは情報収集・経験を通して、会員の皆さんと一緒に夢を描き、その実現のお役に立てばと願って書かせて頂いてまいりました。この間、大小何10回を超える会合、懇親会、視察研修に参加させて頂きました。

その度に必ず2・3人の方から「“会頭コメント”を楽しく読んでいます」と話しかけて下さり、更には励ましをいただくなか今回まで頑張って参りました。先日、編集担当の外山さんから「いよいよ50回目ですよ」とささやかれました。「長い間お読み下さりありがとうございました」心から皆様方に御礼を申し上げます。

この50回は奇しくも私の任期満了の月でもありました。思えば、前・会頭の色部晋司氏の残任期を引き継いで以来の2年間は、まさに光陰矢の如き歳月の早さに驚かされております。外側から傍観者として見てきた会議所内に入ってみると、二千有余の会員事業所を取りまとめる事業運営は多彩を極め、教えられる事、学ぶ事も沢山ありました。この間、悩み苦しむことも少なくありませんでしたが、その度ごとに周囲に新しい友人が生まれ、終生の師・先輩となる方々を得ることができ、極めて幸運だったとむしろ感謝を致しております。改めて多く方達のご指導と暖かいご支援により今回を迎えられた事を心からお礼申し上げます。

不況はすでに峠を越し、君津は南房総の要衝となり、君津製鉄所は未曾有の好況と言われ、君津は県内外から羨望の眼差しを受けております。しかし、私の友人・知人、会議所会員の多くは、「景気が回復したのは大企業のみで、中小企業はむしろ厳しさを増している」と嘆いております。

商業面では、規制緩和が叫ばれるなか大店法が廃止され、地域経済の調和を図る手立てが無くなり弱肉強食の時代となってしまいました。こうした法律の悪改正にもっと抵抗・反対すべきだったとの「悔い、反省」が残ります。こうした状況を踏まえ、次の新しいリーダー達には、先輩達が何代もかけて耕し築き上げて来た美田を、労せず刈り取られることから守る努力を今一度していただかなければならないと思っております。

旧来の良きものを守るとともに、君津を中心とした新しい商圈づくりに取り組んでいただきたいと思います。東京湾アクアライン、かずさアカデミアパーク、館山道・君津インター（三直）、国道410号（房総縦貫道）、国道127号、世界の製鉄所、広大な緑豊かな山野、肥沃な農業大地、小櫃川・小糸川の清流、滾滾と湧出る水、すばらしい景観をたたえる豊英、三島、亀山、片倉、郡のダム（湖）。神社・仏閣、城・城址、伝説など首都圏にこれだけ観光資源を持っている市は無いといえます。こうした点に気付いていただき、自信と夢を持って頂きたい。この2～3年が天の時、地の利を得た時と私は思います。

今大切なことは、経営者が勇気と決断力を持ち「強い経営者」になることが必要だということをお願いしたいと思います。そのための支援を行うことが君津商工会議所の果たすべき役割と認識し、情報提供と人作りのお手伝いに取り組んで行きたいと存じます

人作りとはよき仲間作りであります。「希満塾」「創業塾」「女性会」「青年部」「各部会」をぜひ活用してください。よき仲間、そして本音で話せる友人ができれば「強い経営者」になる一歩を踏み出したものといえます。

今後の皆様方の御健康をお祈りいたします。 ありがとうございます。